

野村グループ presents

マリインスキー・オペラ

芸術総監督
指揮

ワレリー・ゲルギエフ

愛のオペラ

「トゥーランドット」のカラフ役に [2/18(金)・20(日)]

ウラディーミル・ガルージン

出演決定!! 世界最高のドラマティック・テノールが
全身全霊で聴かせる“誰も寝てはならぬ”

現代ロシアが世界に誇る最高のテノール歌手ガルージン。

そのガルージンが今回のマリインスキー・オペラの「トゥーランドット」のカラフ役に出演する[2/18(金)、2/20(日)]ことが決定した!ガルージンはこれまでたびたび来日し、日本の聴衆にその印象深い歌唱を聴かせている。ロシアの名門、マリインスキーとポリショイの両劇場の来日オペラ公演で披露してくれた、テノール歌手にとってはかなりの難役といわれる、歌劇「スベードの女王」(チャイコフスキー)のゲルマン役での出演など、ガルージンが全身全霊をつぎ込んで歌いきった迫真

の日本公演の舞台をご記憶の方も多いであろう。彼は前回のポリショイ劇場の2009年来日公演に先立つインタビューで、こんなことを言っている。

「歌手は与えられた登場人物のキャラクターに“共感”と“愛情”を持って接しなければならない。そして、舞台を観終えた聴衆の心に、明日への希望が生まれなければならない、その舞台は成功とは言えない。」と。

今度はガルージンがそのドラマティックな歌声で、「トゥーランドット」の、カラフによる高らかな“愛の勝利”の Aria を歌う。こちらは言わずと知れたテノール歌

手にとって最高の Aria である。ガルージンにとってトゥーランドットのカラフ役は、ゲルギエフとロンドンで、また今年の白夜祭でもマリインスキー歌劇場(ゲルギエフ指揮)でグレギーナ(トゥーランドット姫役)と共演し、絶賛を浴びている役柄である。我らがガルージンは、きっと他のテノール歌手では決して味わうことの出来ない深い感銘を私たちに与えてくれるに違いない。



ガルージンの出演に伴い、殊に2/20(日)の「トゥーランドット」の最終日(同時に今回のマリインスキー・オペラの最終公演日)には、トゥーランドット役にグレギーナ、リュウ役にゲルズマーワ、カラフ役にガルージンと、主役3役に今日のロシア最高の歌手3人が揃って舞台上に登場することになった。

インタビュー
Interview

3人出演の「トゥーランドット」(2/20(日))も実現!!

MET 鮮烈デビュー速報

ヒブラ・ゲルズマーワ

(ソプラノ)



ヒブラ・ゲルズマーワが、この9月メトロポリタン・オペラにデビューした。演目は、オッフェンバック最後の作品にして唯一のオペラ、「ホフマン物語」である。プロダクションは、昨年度初演されてヒットしたパートレット・シャーによるもので、通常リバイバルだとアシスタントがステージングを行うというが、今回はシャーが自ら新しいキャストを演出したとのことだ。果たして今回の上演は、ゲルズマーワ

始めとするフレッシュなキャストに恵まれて、全体としては初演よりも良いのでは、と思える程の感動的なものとなった。

シャーの演出では、開幕すると舞台では、ホフマンと美しい女性が抱擁している。この女性はホフマンが愛するプリマドンナ、ステラなのだが、ステラの方はホフマンの方にそれ程思いを寄せていないというか、むしろ手玉にとっている様子が、冒頭の短い時間で一切のセリフなしで示される。この不実なる女性、ステラを演じているのがゲルズマーワで、彼女は

一言も発することなく強烈な印象を残す。しかしゲルズマーワが歌手としてその真価を発揮するのは、第2幕に登場する薄幸の若い女性、アントニア役である。彼女は、その第一声から、儂げでありながらも芯の強さを感じさせる表現で、観客を一瞬のうちに引き込んでしまう。歌うと命が危うくなるにもかかわらず、歌うことがやめられずに死んでしまうアントニアのストーリーは、全幕中もっとも緊迫したドラマチックなシー

小林伸太郎(音楽ジャーナリスト)/在ニューヨーク

ンと言っていないだろう。アントニアに与えられた冒頭の Aria 「小鳩は飛び去った」を始め、この幕が「ホフマン」の中で一番好きだという人も少なくない。そんな大役でメットの舞台上に初めて立ったゲルズマーワだが、彼女はその恵まれた潤いのある美声をもって、アントニアの驕りと内に秘めた激しい情熱の炎を、余すことなく歌い演じ切った。観客から大喝采を浴びたのは、言うまでもない。ちなみにニューヨーク・タイムズ紙は、彼女が歌う「小鳩は飛び去った」を、「悲痛な美しさ」と表現、高く評価した。

来シーズンは、「トゥーランドット」リュウでメトに帰ってくるという彼女。これからもニューヨークでの活躍に期待出来そうだ。

現代最高のトゥーランドット歌手 マリア・グレギーナ

(ソプラノ)

インタビュー:小田島久恵(音楽ライター)

——色々な国で「トゥーランドット」を歌われていますが、この役にはどんな感情を抱いていますか?

G 「トゥーランドット姫は私が大好きな役。よく理解できます。彼女が抱く痛みの背景には、過去から引き継がれてきた(遺伝)歴史があります。その痛みは、何の力をもっても癒すことが出来ません。私は、アルメニア人として、そして少しユダヤ人の血が混じる人間として、かつて先祖が受けた迫害を、トゥーランドットは自分で体験したかのように感じてその痛みがわかります。トゥーランドットが自分の人生や、祖先の人生のことを語るとき、きっとすごく恐れているのだと思います。心を開くことができないでいる。彼女は、悪女ではありません。きっと、そう感じるのは、私だけではないでしょう」

——マエストロ・ゲルギエフは、具体的なアドバイスはするのですか?

G 「トゥーランドットは、ドイツで共演しました。言葉のアドバイスというよりは、短時間で合わせて、すぐに本番。私にとっては、これまでのトゥーランドットの中でも、1、2の出来でした。言葉を並べるアドバイスよりも、もっと大きなメッセージを、マエストロは投げかけてき

ます。私は“大船に乗った気持ち”で歌うことが出来ます」

——マリインスキーのオーケストラについては、どういう特徴があると思いますか?
G 「驚くようなオーケストラです。オーケストラ、と一まとめに考えるのではなく、一人一人が超ハイレベルの音楽家の集団です。「メンバー」という言葉をつかうことすら、気が咎める。一人一人の、独立した素晴らしい音楽家の集まりです」

——「トゥーランドット」は悪女ではないと仰いましたが、それでも恐ろしい姫として民に恐れられています。ヴェルディの「マクベス」のマクベス夫人など、世界中のオペラ界が、グレギーナさんに「悪女」を演じて欲しいと思っているのでは?

G 「よく言われます。残虐な役が好きなのでは?と。ですから、答えるんですよ。ええ、朝食には人の血を5リットル飲んで、ランチには人を2,3人食べて、夜はまた血を飲みます!と。(笑)」

G 「本当は、そんなことはまったくなく、私は二人の子の母で、普通の人間、パラレンピックの名誉会長という肩書きもあります。それに2年前には、ユニセフの親善大使にも選ばれました。ですから、私が“血に飢えた悪女”というのは、間違い!」

——強い悪女を演じるのは、好きですか?
G 「弱い女性を演じるのも好きですよ。悪女を演じるときは、人々が彼女を哀れに思うように演じています。私が演じるオペラは、いずれも善と悪がモザイクのように交わり合っています。トゥーランドットに関して言えば、まったく悪女ではありません。悪人でも聖人でもなく、大変な宿命を背負って生きている、ひとりの女性なのです」



グレギーナとガルージン(トゥーランドット)

見込み)

ベルリオーズ「トロイアの人々」

2月14日(月) 18:30
サントリーホール
※公演時間：約4時間

Feb.14(Mon) 6:30p.m.
Suntory Hall

S¥28,000 A¥23,000 B¥18,000
C¥12,000 D¥ 8,000

ワーグナーの夕べ

「パルジファル」第3幕、他
Wagner: Parsifal Act III etc.

2月15日(火) 19:00
サントリーホール
※公演時間：約2時間15分

Feb.15(Tue) 7:00p.m.
Suntory Hall

S¥25,000 A¥20,000 B¥15,000
C¥10,000 D¥ 7,000

ロシア音楽の夕べ

「イーゴリ公」、ショスタコーヴィチ：交響曲第5番、他
Shostakovich: Symphony No.5 etc.

2月16日(水) 19:00
横浜みなとみらいホール
※公演時間：約2時間

Feb.16 (Wed) 7:00p.m.
Yokohama Minato Mirai Hall

S¥20,000 A¥16,000 B¥12,000
C¥ 8,000 D¥ 6,000

840

<ジャパン・アーツ夢倶楽部会員>

「トロイアの人々」 S¥27,000 A¥22,000 B¥17,000 C¥11,000 D¥ 7,200
「ワーグナーの夕べ」 S¥24,000 A¥19,000 B¥14,000 C¥ 9,000 D¥ 6,300
「ロシア音楽の夕べ」 S¥19,000 A¥15,000 B¥11,000 C¥ 7,200 D¥ 5,400

twitter @mariinsky_opera